

衣笠

第497号
September.2025
2025年9月1日発行



わたしの兄弟である
この最も小さい者の一人にしたのは
わたしにしてくれたことなのである

マタイによる福音書 25章40節



社会福祉法人
日本医療伝道会
衣笠病院グループ
Japan Medical Mission
<https://www.kinugasa.or.jp>



理事就任のご挨拶 「主のお入り用とされる」

衣笠病院グループ 理事 内出 容子

この度理事を拝命した内出容子と申します。精神科医師です。過去に在籍した大学病院では、臨床医として救命救急を主としたリエゾン精神医学、緩和医療、女性精神医学に励んでおりました。個人的な関心領域は、長期経過症例の精神病理学的考察です。

私は小学2年生になる春に横須賀に転居し、横須賀学院小学校に転校。学校近くの横須賀小川町教会に通い、15歳で受洗しました。現在は同教会のオルガニスト、長老として用いられております。その様な背景から、衣笠病院にはとても親しみを感じておりましたが、後に思いがけずお世話になる事に。2013年12月に父がホスピスで就眠。また2年前には私が交通事故で受傷し当番であった当院に搬送され、初療から手術、リハビリまで病院の皆さまに大変よくしていただきました。心より感謝いたします。

目下、東京都心身障害者福祉センターでの判定業務、都内の精神科クリニックでの診療、千葉県精神科病院での外来・入院の診療をしておりますが、今般、横須賀の地でも主がお入り用として下さったと信じ、責任をもって務めて参りたく存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。

- 2 衣笠ホーム・ホーム長に就任して
衣笠ホーム ホーム長 柳井 芳明
衣笠ろうけん開設 30 周年を迎えて
衣笠ろうけん 事務課長 兼 支援相談課長 古内 郁子
- 3 在宅医療の現場から 第2回
衣病訪問看護ステーション 管理者 安田 真琴
地域包括支援センターって？ 第2回
久里浜地域包括支援センター
- 4 組織変更について
専務理事・グループ本部長 都甲 真二
事務部長就任のご挨拶
衣笠病院 事務部長 加藤 将文
- 5 衣笠病院グループ歴史館 第6回
衣笠病院の源流（その6）
法人監事 阿部 誠
今月の聖句
日本基督教団鎌倉ノ下教会 牧師 川崎 公平
- 6 2024 年度の決算報告・事業報告
専務理事・グループ本部長 都甲 真二
2024 年度 後援会会計報告
衣笠病院グループ福祉医療後援会 会長 松山 慶三
社会福祉法人 日本医療伝道会
理事・監事の改選
- 7 予防接種のご案内
管理栄養士おすすめの秋レシピ
「きのこの和風マリネ」
衣笠病院 管理栄養士 日本糖尿病療養指導士 志村 友里恵
- 8 介護用品・福祉用具 どうやって利用？ 第2回
使用済み切手で国際保健医療協力を！
編集後記

プロフィール

1982年 横須賀学院中学校卒業、受洗
1989年 慶應義塾大学文学部哲学科卒業
1996年 東京女子医科大学医学部卒業、同大学精神医学教室入局
(2007年 医局長)
2016年 同大学八千代医療センター神経精神科・心身医療科科長
(2019年 退職)
精神保健指定医、精神科専門医・指導医、(一社)日本オルガニスト協会正会員



大韓療養病院協会視察受け入れ 7月3日衣笠病院にて



衣笠ホーム・ホーム長に就任して

衣笠ホーム ホーム長 柳井 芳明

この度、特別養護老人ホーム衣笠ホームのホーム長に就任いたしました。柳井芳明と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

一般企業から衣笠病院グループにお世話になり、早38年が経ちました。健康管理センターに入職してから、衣笠ろうけん、法人事務局、ケアセンター、病院、クリニック等を担当させて頂き、今日の衣笠ホームで務めさせていただきます。

衣笠ホームは、1970年7月10日に衣笠病院と同敷地内に開設し、2003年12月にユニットケア(全室個室)として、110名の入居と10名のショートステイを有した特養として芦名に移転しました。今年7月で開設55周年を迎えることが出来ました。地域の方々をはじめ法人内外の方々にあらためて感謝を申し上げます。法人の創立の精神「この最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」そして、初代宮地ホーム長からの「ホームで何事か決める時、

全てそれが利用者にとって都合の良い方を選んでほしい」は、現在でも大切に守られています。

ホームは家庭を意味します。利用者の生活を尊重し、一人になれる場所(個室)仲間と語らえる場所(ユニット)で、利用者の過ごしてきた人生を価値あるものとして、その人らしい暮らしを支援し、ともに支えさせていただきます。

9代目ホーム長として初代宮地ホーム長の遺志を継承し、職員と共に歴史ある衣笠ホームを守っていききたいと思います。

今後とも、衣笠ホームへのご支援ご指導よろしくお願い申し上げます。



衣笠ろうけん開設30周年を迎えて

衣笠ろうけん 事務課長 兼 支援相談課長 古内 郁子

衣笠ろうけんは、横須賀市では最初の介護老人保健施設として1995年7月に開設して今年で30周年を迎えました。

ここまで安全に運営ができてまいりましたことはご利用者様、ご家族様、地域の皆様のお力あつてのことであると感じております。この場をお借りして御礼申し上げます。

衣笠ろうけんはリハビリテーションを強化して、安心・安全にご自宅で過ごしていただくことができるよう多職種でサポートをさせていただいております。

また、ここ数年の間には嚥下機能評価や嚥下リハビリテーション、口腔体操等の導入や見守りセンサー『眠りスキャン』による生活リズムの把握や体調管理をおこなえるようになりました。

介護老人保健施設をご利用される方は、医療機関での治療後、ご自宅での介護困難等、それぞれの理由や事情があります。また、お体の状態も違います。我々職員は、おひとりおひとりに合っ

たリハビリテーションや生活支援・介護・看護・医療・栄養管理等をおこない、衣笠ろうけんを利用して良かったと思っていただけるようチーム介護をおこなっております。

今後も衣笠地域における介護施設としての役割、地域の皆様のお役に立てることは何かを常に考えながら鋭意努めてまいります。

介護に関してお困り、お悩みのことがございましたらお気軽にご連絡ください。



在宅医療の現場から 2

衣病訪問看護ステーション 管理者 安田 真琴

看護師と言っても、色々な場所でお会いすることがあるかと思います。衣笠病院グループでいうと、病院の病棟や外来、入院時の相談、訪問診療、健康管理センター、老人保健施設、老人ホーム、デイサービスそして訪問看護ステーションがあります。今回は、衣笠病院と同じ敷地にあります衣病訪問看護ステーションのご紹介を致します。

訪問看護ステーションとは、看護師や作業療法士、理学療法士等のセラピストがご自宅に伺い、ケアをする事業所です。現在、看護師が9名(ケアマネジャー兼務2名)、リハビリセラピスト3名(各常勤・非常勤含む)が所属しています。主なサービス内容としては、病状や健康状態の観察、服薬の管理、医療処置や治療上の看護はもちろんのこと、療養状態の相談・支援、介護相談、精神面の看護も行っております。また、病院と併設しているステーションであるため、病院との連携が可能で、居宅介護支援事業所を併設していることもあり多職種連携を意識して行っています。「利用者さんや家族が自分らしく自宅で生活することを支えられたらと日々頑張っております。看護師の訪問をご希望される方は、担当のケアマネジャーさんや病院のソーシャルワーカーさん、直接お電話などでご相談いただけたらと思います。(当訪問看護ステーション：TEL 046-852-1471)



地域包括支援センターって? 2



権利擁護

久里浜地域包括支援センター

『権利擁護』という言葉聞いて、皆さんはどんなイメージを持ちますか? 「ちょっと難しそう」と思われるかもしれませんが。権利擁護とは、「認知症などによる判断能力が十分でない方々などの権利の代弁・弁護を行い、安心して生活できるよう支援すること」です。

私たちは普段、何気なく生活しています。でも、ずっとその暮らしを続けることができるのでしょうか? 誰も高齢者になることは避けられませんし、様々なトラブル、病気などによりある日突然「困った!」という状態になるかもしれません。その「困った!」という状態になった時にその原因や対処方

法と一緒に考え、必要に応じて専門家の力を借りることができるようになることが、「権利擁護支援」と呼ばれるものです。人はみな、当たり前の暮らしの中で自分自身の「権利擁護」をしていますし、それが出来なくなった時には「権利擁護支援」を受けることができます。高齢期になると判断能力の低下から消費者被害にあいやすくなったり、高齢者虐待が生じる可能性も出てきたりします。高齢者の方の生活について気になることがあった場合には、お住まいの地域を担当している地域包括支援センターにご相談ください。

組織変更について

専務理事・グループ本部長 都甲 真二

6月1日から、グループの重要な課題解決に向けた組織・人材配置とすることと、横断的・一体的な運営を目指して、組織を改編しました。

第一に、病棟名を「場所」から「医療機能」に変更し、本館4階が急性期病棟、本館5階が本館包括ケア病棟、東館5階が東館包括ケア病棟、東館4階が回復期リハビリ病棟に変わりました。併せて看護部組織を再編し、組織名を〇〇看護課とし、管理職名を師長から課長に変更しました。また急性期病棟と手術室・中央材料室を一つにして急性期看護課、外来と健康管理センターを一つにして外来看護課としました。

第二に、健康管理センターの医務科・看護課・医療技術課を廃止して病院と一体的に運営するとともに、事務課を事業推進課に変更して健康管理事業の全体を担い、将来のリニューアルに備えます。

第三に附属在宅クリニックが衣笠病院と一体になって「在宅医療センター」となり、三浦半島で唯一の単独型・機能強化型の「在宅療養支援病院」に指定されて、地域での立ち位置が明確になりました。また訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所と一緒に健康管理センター2階に移転し、在宅医療と在宅介護の協働と連携を図ります。事務部門は地域包括ケア“推進”課となり、在宅医療・介護サービスの拡大と充実を推進します。



事務部長就任のご挨拶

衣笠病院 事務部長 加藤 将文

このたび 衣笠病院事務部長に就任いたしました。衣笠病院相談・支援センター在任中は、医療介護福祉事業所の皆様方より格別のご愛顧を頂戴し心より御礼申し上げます。78年という歴史ある衣笠病院の事務部長職を担うには正直経験不足ではないかと不安と重圧を感じながらも、前任の事務部長のサポートをいただきながら「立場が人を作る」という言葉を自分自身に言い聞かせ、職責を担わせていただいております。

衣笠病院グループは聖書のことばを「創立の精神」とし、日々、病む人、高齢の人、支援を必要とする人々に向き合うことで、地域福祉の向上を目指しています。これは、医療従事者として、まさに変えてはならない大切な理念だと思えます。これに加え、私自身、グループで共に働く職員の皆さんにも真摯に丁寧に接していく事を心に刻み、精進させていただく所存です。今後ともご指導を賜れますようよろしくお願い申し上げます。

「衣笠病院グループ歴史館」

第6回 衣笠病院の源流(その6)

開設から12年以上に亘り、キリスト教福祉病院として順調に地域の方々に奉仕してきた衣笠病院は突然火災に見舞われ、建物の大半が焼失してしまうこととなりました。

⑫ 病院火災

1960年1月6日午後9時、2階産科分娩室より出火し、一瞬にして病院の殆ど全館が焼け落ち、看護婦寄宿舍の一部とボイラー室及び教会堂が残ったのみの状況でした。

夜勤者は総出で患者の避難救助に当たりましたが、木造建築で床には埃防止のため油をひいてあったため、一気に火が燃え広がり消火は困難を極めました。この火災により新生児8名・入院患者6名・付添人1名と看護婦1名の尊い命が失われました。青嶋ミチヨ看護婦は救助のため火中から数回にわたって5名の新生児を救出したうえ、更に火中のなかに引き返したが力尽きて2児と共に殉職しました。火災の原因は消防署に提出した報告書によると分娩室の暖房用重油ストーブの燃料の出が悪かったため職員が補修部品を取りに行くため部屋を数分空けてしまったときに火が出たそうです。救出された患者たちは病院教会や隣の衣笠小学校の体育館・近隣家庭に一時的に避難し、その後市内の病院に転院した方、自宅へ戻った方もありました。

病院は亡くなられた方々の霊を慰め、尽くしえる補償をするための最善の努力をすることを神に誓うこととなりました。翌1月7日には遺族からの合同葬は仏式でしてほしいとの要望もあり大明寺の住職を始めとして市内の寺の僧侶5名により教会堂で読経・木魚の音と線香の香りのなか葬儀が執り行われたと当直医だった古谷智恵子医師が語っています。このことはキリスト教関係者からの批判もありましたが遺族の希望に寄り添い良かったといわれています。翌1月8日には病院葬としてキリスト教式で横須賀小川町教会宮崎俊三牧師の司式で葬儀を執り行い、葬儀が2回執り行われたこととなりました。病院葬の様子はNHKよりテレビニュースで全国放送されたそうです。全国各地より

多くの見舞金が寄せられました。その都度ご遺族に届け、厳しいジャーナリズムの批判に黙々と耐えながらの困難の日々がはじまりました。

⑬ 困難の中の診療再開

そのような中「病院復興を速やかにせよ」との声が遺族や市民のなかからおこりました。市民の中には神奈川県知事宛てに診療再開協力の陳情書も寄せられていたそうです。病院関係者は中々診療再開は困難だと思っていました。職員は焼失前は120名余居ましたが、約半数の職員が病院に財的負担をかけたくないと思いつつ退職し、残った60人余の職員で同年2月17日に57床の病床を確保し診療を再開することとなりました。遺族への補償もひと段落し、小崎道雄理事長・木村良夫病院長ら殆どの理事が火災の責任をとり退任し、同年7月には松尾造酒蔵牧師が代表理事となり、宮地利彦新病院長を中心に日本基督教団、日本基督教社会事業同盟、日本キリスト者医科連盟、日本YMCA同盟よりそれぞれ理事を迎え、理事会が補強され本格的に復興に取り組むこととなりました。

翌年1961年1月6日には罹災者追悼式が執り行われ、遺族・病院関係者・キリスト教関係者が集まり、罹災者への追悼の祈りがささげられました。同時に新生児の救助のため殉職した青嶋ミチヨ看護婦の崇高な働きに対して、横須賀市社会福祉協議会より顕彰碑が病院正面に建立されました。病院はそれ以降毎年罹災者追悼記念礼拝を行い今日に至っています。

今回は復興の歩みを紹介させていただきます。

(法人監事 阿部 誠)

今月の聖句

日本基督教団
鎌倉雪ノ下教会 牧師

川崎 公平

「イエスよ、私を思い出してください」

そして、「イエスよ、あなたが御国へ行かれるときには、私を思い出してください」と言った。するとイエスは、「よく覚えておくが、あなたは今日私と一緒に樂園にいる」と言われた。
(ルカによる福音書第23章42-43節)

今年5月に母を亡くしました。死因は脳出血でした。「自分の口で食べる力がなくなったら、胃瘻、経管栄養、点滴などすべて拒否します」という遺言に従って、家族は少しづつ決断をしなければならませんでした。「この遺言通りにしたら3日から5日で死にますよ」と病院から念を押されました。念のために申ししますが、これが誰にとってもいちばん正しい死に方だと主張するつもりはありません。しかしこのような母の遺志の背後に、復活の信仰があったことは明らかです。地上の肉体の命に無理にしがみつ়必要はないのです。けれどもそれは、「死んだって、どうせまた生き返るし」という話でもないのです。

母の葬儀に際して、初めて母の愛唱讃美歌を知りました。イエスと共に十字架につけられた犯罪人の祈りです。

イエスよ、みくににおいてになるときに、

イエスよ、わたしを思い出してください。(『讃美歌 21』112 番)

この〈もうひとりの犯罪人〉の祈りは、すべての人の祈りになりました。それが母の祈りになっていたとは知りませんでした。自分の側には、何の望みも、何の権利もないのです。しかし、イエスよ、あなたがわたしを思い出してくださいなら……安んじて自分の死を受け入れることもできるのです。

こんなことをこんな場所に書くのもどうかと思いますが、欠点の多い母でした。そんなことは、母自身がよくわかっていました。「私は、その罪人の頭です」(1 テモテ 1. 15)。だからこそ徹底して、「自分のような罪人が子どもを私物化してはいけない」と考えたようです。「この子たちは自分の所有物ではない。神さまのものだ」。厳しい母でしたが、また異様なほどに子どもたちの自由を重んじてくれました。だからこそ、牧師になることも許してもらえたのかな、などと思っています。



2024年度の決算報告・事業報告

専務理事・グループ本部長 都甲 真二

1年を通して安定した運営と高い稼働を維持できましたが、診療報酬の実質マイナス改定もあって減収となり、人件費や診療材料費・食材費・水道光熱費・支払利息などの諸経費が増加したため、何とか赤字は回避できましたが、極めて厳しい決算となりました。

昨年末に横須賀三浦医療圏の病院・診療所・訪問看護・介護関係者などが参加して診療情報を共有する「さくらネット」がスタート、3月に市立総合医療センターが開院して、医療・介護の機能分担と連携が新しいステージに入り、衣笠病院グループの役割は重要性を増しています。

2024年度は医療機器の更新や建物・設備の修繕を行うとともに、医療安全の確保や職員の負担軽減に役立つ看護記録の自動伝送や入所者見守りなどのICT機器を導入しました。在宅介護部門には統合情報システムを導入して、さまざまな情報が一元管理できるようになりました。また来年4月の導入を目

指して、人事制度の全面的な改定作業に着手したところです。

このような取り組みを通じて各職種の人材が揃い、働きやすい環境でそれぞれの力を発揮し、地域から求められている、安全で質の高い医療や介護を継続できる衣笠病院グループでありたいと願っています。

社会福祉法人 日本医療伝道会

■ 2024年度 損益状況

収入総額	5,644
【事業活動収入】	5,573
【事業活動外収入】	52
【特別収入】	19
支出総額	5,638
【事業活動支出】	5,549
【事業活動外支出】	77
【特別支出】	12
当期活動増減差額	6

■ 2024年度 財産の状況

2025年3月31日現在(単位:百万円)

資産総額	6,314
流動資産	1,431
固定資産	4,883
負債総額	6,314
流動負債	1,917
固定負債	3,143
差引純資産総額	1,254



2024年度 後援会会計報告

衣笠病院グループ福祉医療後援会 会長 松山 慶三

日頃より衣笠病院グループ福祉医療後援会に多くのご支援を賜り感謝申し上げます。また衣笠病院グループ内の各施設への寄付やその他多くの寄付を頂きましたこともあわせて感謝申し上げます。

2025年7月16日に衣笠病院グループ福祉医療後援会評議員会を開催し、2024年度事業会計報告が承認されました。皆様からの寄付金は、衣笠病院グループの医療・介護の機

器等の購入など、地域の利用者・患者の皆様のために役立てるよう、大切に使用させて頂いております。尚、明細は下記の通りです。これからも衣笠病院グループ福祉医療後援会に、1人でも多くの方にご加入いただきご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

お問合せはグループ本部 総務課まで
TEL: 046-852-1182 (代)

■ 2024年度寄付金

	後援会	創立記念	クリスマス	ホスピス	衣笠 ケアセンター	衣笠ホーム	衣笠 ろうけん	在宅 クリニック	長瀬 ケアセンター	総計
件数	574	3	83	26	11	93	8	2	2	802
金額(円)	7,489,912	97,000	1,168,295	381,000	22,000	361,100	415,000	20,000	212,000	10,166,307

社会福祉法人 日本医療伝道会 理事・監事の改選

2025年6月開催の評議員会及び理事会において、次のように選任されました。

任期 2025年6月20日～2027年度の最初に開催する定時評議員会終結の時まで。

理事長: 古屋 修身

理事: 内出 容子

田口 努

監事: 阿部 誠

専務理事: 都甲 真二

佐野 かず江

武藤 正樹

岸川 洋治

常務理事: 岡村 隆一郎

鈴木 由美子

柳井 芳明

水田 秀子

予防接種のご案内

衣笠病院健康管理センターでは、肺炎球菌ワクチンなど各種予防接種を行っております。

令和7年度より新たに带状疱疹ワクチンの定期接種が開始されました。带状疱疹は水痘と同じウイルスで起きる皮膚の病気です。50歳以上になると発症率が高くなり、80歳までに約3人に1人が带状疱疹になるといわれています。

定期接種は65歳となりますが、今年は70歳、75歳と5歳刻みの年齢の方々が補助の対象となっております。補助対象のご年齢の方は市町村から送られてくる接種券をご確認ください。なお、補助となる年齢が先の方は、自費で接種することも可能です。

带状疱疹ワクチンには生ワクチンと不活化ワクチンの2種類がありますが、当健康管理センターではいずれもお選びいただけます。それぞれ接種回数、費用、効果期間など

が異なるため、予防接種を希望される方はご相談ください。

まもなくインフルエンザの予防接種が始まります。ワクチンの入手状況を踏まえ予約の準備をしておりますので、しばらくお待ちください。

合わせて、新型コロナワクチン接種も定期接種になり2年目となります。多くの方が予防接種を受けられるよう、体制を整えております。

LINE公式アカウントでは、健診のお知らせやインフルエンザワクチン接種の予約開始など、最新情報を得ることができます。ぜひ、ご登録ください。



きのこの和風マリネ

衣笠病院 管理栄養士 日本糖尿病療養指導士 志村 友里恵

まだまだ暑い日が続くので、秋の味覚をさっぱり取り入れられるレシピを紹介します。

材料 (3人分)

エリンギ・しめじ・舞茸

(お好きなきのこ類に変更OK) …各1パック

サラダ油…大さじ1/2 にんにくみじん切り…1片

鷹の爪…1本 酒…大さじ1と1/2

A { 酢…大さじ2
醤油…大さじ1
砂糖…小さじ1
鶏ガラスープ…小さじ1/4

作り方

- ①きのこを食べやすく切る
 - ②フライパンにサラダ油とにんにくを入れ、弱火で炒める
 - ③香りがたったら①と鷹の爪を加え、強火で炒める
 - ④火が通ったら酒を加えてひと煮たちさせる
 - ⑤火を止めて、Aを加え、混ぜ合わせたら完成
- ※小ねぎはお好みでご用意ください。

きのこには食物繊維やビタミンDが多く含まれています。食物繊維は食事の最初に食べることで、血糖値の上昇を抑えるやかにしてくれる効果があります。ビタミンDは骨を丈夫にするカルシウムの吸収を良くしてくれる働きがあります。ぜひ積極的に取り入れてみてください。



第2回 介護用品・福祉用具 どうやって利用？

車いすについてイノベーションオブメディカルサービス横須賀営業所の福祉用具専門相談員 清水涼平さんにお話を伺いました。

(ケアマネジャー：渡邊 美智子)

皆様は車いすと聞くとどのようなイメージをお持ちでしょうか？

車いすには大きく分けて「標準タイプ」「モジュールタイプ」「リクライニング・ティルトタイプ」「電動タイプ」があります。

車いすは安全に移動が出来るモノだけではなく、"その方に適した車いす"であれば生活が大きく変わるモノです。

ご利用者様の身体機能、体格や姿勢、あるいは住環境によってご提案させて頂く種類は全く変わってきます。毎日の生活に少しでも変化を感じて頂けるよう福祉用具の提案を行います。担当のケアマネジャー等へお気軽にご相談下さい。



モジュールタイプの車いす

使用済み切手で国際保健医療協力を！

衣笠病院グループは、JOCS（日本キリスト教海外医療協会）の「使用済み切手運動」を応援しています。使用済み切手は約5000枚でタンザニアの看護学生ひとりの1年分の教科書代になるそうです。どんな種類の切手でも、右図のように切り取って当グループ各施設にお持ちください。JOCSにお届けします。切手運動の詳しい説明はJOCSのホームページをご参照ください。（法人職員ミッション活動委員会）



JOCS切手
運動のページ

病院受付の
切手回収箱



©JOCS



編集後記

厳しい残暑が続いておりますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。今年は例年より梅雨明けも早く、暑い日の多い酷暑となりました。疲れが出やすく体調も崩しやすい時期ですので、どうぞお体に気を付けてお過ごしください。

さて、9月15日は敬老の日ですね。

私が勤めている施設では、ご利用者様とご家族様と一緒に祝い膳を召し上がっていただく「敬老会」が開催されます。ご家族様と同じ食卓で華やかな食事を楽しまれているご利用者様は、いつもよりも言葉数や笑顔が多くみられます。施設に入居した後も、家族団らんの時間とあたたかな笑顔がずっと続いていきますように、私たちも力添えができればと思います。(K.S)

「衣笠」No.497

2025年9月1日発行

発行人 古屋 修身

発行 社会福祉法人

日本医療伝道会衣笠病院グループ

〒238-8588 横須賀市小矢部 2-23-1

TEL. 046-852-1182 (代表)

郵便振替口座 00220-2-13963

編集 社会福祉法人日本医療伝道会
広報委員会

印刷 (株)ポートサイド印刷

